

社会科の教科内容の水準に関する国際比較(1)

—英国と米国—

A Comparative Study on the Content Standards of Social Studies(1) — the U.K. and the U.S.A. —

中野 和光

Kazumitsu NAKANO

要 約

英国の国家カリキュラムにおける歴史、地理、公民と米国の歴史、地理、社会科の国家標準の水準の比較を行うことを目的として、それらのカリキュラムの構造の対比を行った。

英国の場合、歴史は、英国史、ヨーロッパ史を中心とした伝統的な歴史学習である。地理は環境の自然的人文的調査ととらえられ、場所と主題によって学習させている。公民は、教養ある市民となるための知識、技能、理解、行動を学習する教科とされている。米国の場合、グローバルな視点で合衆国史と世界史を学習させている。地理は地球全体の中での人間の環境と場所の学習として学習させている。社会科は市民としての能力を高めるための社会科学と人文科学の総合学習とされている。

キーワード：国家カリキュラム、カリキュラムの国家標準、教科内容の水準

I. はじめに

英国においては1988年以来、国家カリキュラムによって学校教育が行われている。米国においては、カリキュラムの国家標準が出揃っている。我が国においては、2002年から新しい学習指導要領が施行されることになっている。本研究は、これらのカリキュラムの教科内容のうち、社会科にかかわる教科内容の水準の比較を行いたい。比較の方法は、第一に、それらのカリキュラムの構造を全体として考察し、その考え方、構成、等の特徴を相互に対照させながら比較を行いたい。第二に、教科の内容のそれぞれについて、それらがどのように位置づけられ、どのように教えられようとしているかを比較検討してみたい。第三に、より大きな国際的文脈の中で、それらの水準を検討してみたい。本稿においては、英国の歴史、地理、公民と米国の歴史、地理、社会科の教育課程の構造を対比して考察する。

II. 歴史の教育課程の対比

1. 英国の歴史の教育課程

1988年の教育改革法においては、歴史と地理のみで、公民(citizenship)はない。後に、公民が加わる。歴史の教科内容の特徴は次のようなものである。

ステージ全体を通して、生徒は次の学習機会が与え

られなければならない。

- a 過去の諸側面を輪郭と深さをもって学習する。
- b イングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズの歴史の諸側面を学習する。適切な場合は、英国史をヨーロッパと世界の文脈の中で学習する。
- c 多様な視点-政治、経済、科学技術、社会、宗教、文化、芸術-で歴史を学習する。

キーとなる要素

- ①年表、②歴史的知識と理解の範囲と深さ、③歴史の解釈、④歴史的探究、⑤組織とコミュニケーション

キーステージ1(5~7歳)

過去の人々の生活と文化

英国史における有名な人々の生活

英国史におけるさまざまな出来事

キーステージ2(7~11歳)

学習単元

- 1 英国におけるローマ人、アングロサクソン人、ヴァイキング
- 2 テューダー王朝時代の生活
- 3 a ヴィクトリア王朝時代
- 3 b 1930年以降の英国

- 4 古代ギリシャ
- 5 地方史
- 6 非ヨーロッパ史

キーステージ3(11~14歳)

学習単元

- 1 中世：1066-1500年の英国
- 2 連合王国の成立：
国王、議会、人民、1500—1750
- 3 1750-1900頃の英国
- 4 20世紀の世界
- 5 1914年以降のヨーロッパ史における時代
あるいは転換点
- 6 非ヨーロッパ史

2.米国の歴史の国家標準

K-4における歴史の意味

歴史は、子どもたちの経験を拡大し、典型的な人生や重要な出来事に関与するという感覚を育て、価値観を理解させ、偉大さの展望を持たせる。

標準の定義

歴史の標準には相互に関連する次の二つのタイプがある。

- 1 歴史的思考技能
- 2 歴史的理解

K-4の歴史の標準開発の原則

- 1 子どもは歴史的に理解し、考えることができる。
- 2 子どもたちは、過去、現在、未来を容易に区別できる。
- 3 生き生きとした歴史にするために、人々に焦点を当てた方が良い。
- 4 物語り、神話、伝説、伝記を通したとき理解しやすくなる。
- 5 家族写真、手紙、日記、博物館、歴史的遺跡といった直接的体験できるものを通した方が理解しやすい。
- 6 これらの資料が想像的に提示された方が理解しやすい。

K-4の歴史学習の3つの方法(ブラッドリー委員会)

- 1 昔々あるところに(here-there-then)法
- 2 同心円の拡大法
- 3 文学中心法

これらのいずれの学習の方法にも用いられるように次のようにトピックを配列した。

- トピック1 家族と地域社会の現在と昔の生活と協力

トピック2 生徒自身の州や地域の歴史

トピック3 合衆国の歴史

トピック4 世界中の多くの人々の歴史

これらのトピックは、近くから遠くへと配列されているが、同心円カリキュラムではない。なぜなら各学年において国家と世界、近代と古代を学習するからである。

標準は、授業の成果を定義しているので、学習の方法は、上の3つの方法のいずれを用いても良い。カリキュラムのデザインも決めていない。

歴史的理解

- 1 歴史を通した社会の深い理解
- 2 自分たちの住んでいる世界の深い理解
- 3 政治的活動空間(民主主義)の理解
- 4 理念、信念、価値観は歴史を通じて人々の行動に影響することの理解

歴史的思考

- 1 年代記的思考
- 2 歴史的理解
- 3 歴史的解析と解釈
- 4 歴史研究能力
- 5 歴史的問題分析と意志決定

歴史的理解と歴史的思考の統合にもとづいて標準が構成される。

ただし、生徒自身の州や地域の歴史に就いての学習をすべての学年で学習するわけではない。

歴史の標準

トピック1 家族と地域社会の今と昔の生活と協力
標準1 今と近い過去における家族;遠い昔のさまざまな場所における家族の生活

標準2 生徒の地域社会の歴史と遠い昔における北アメリカにおける地域社会の変化

トピック2 生徒自身の州と地域社会の歴史

標準3 自分たちの州の歴史を作った人々、出来事、問題、考え

トピック3 合衆国史

標準4 民主主義的価値観はどのようにして生まれたか

人々、出来事、象徴の中にそれはどのように表現されているか。

標準5 現在と過去において、合衆国に人々が移民してくる原因と性格

標準6 我が国の国家的遺産の形成に貢献した地域の伝承と文化

トピック4 世界の多くの人々の歴史

標準7 アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパの

様々な社会の特徴と歴史的発展
標準 8 科学と技術の主要な発見、それらの社会的
経済的影響、科学者と発明者

合衆国史 第5-12学年

歴史的思考と歴史的標準を統合した合衆国史の標準	
第1期(はじまりから1620年まで)3つの世界の出会い	標準1~3
第2期(1585-1763)植民地化と定住	標準1~3
第3期(1754-1820s)革命と新国家	標準1~3
第4期(1801-1861)拡大と改革	標準1~4
第5期(1850-1877)内戦と改造	標準1~3
第6期(1870-1900)産業の発展	標準1~4
第7期(1890-1930)近代アメリカの勃興	標準1~3
第8期(1929-1945)大恐慌と第2次世界大戦	標準1~3
第9期(1945-1970年代初期)第2次世界大戦後	標準1~3
第10期(1968-現在)現代アメリカ	標準1~2

各標準に、5-6、7-8、9-12学年毎の生徒の達成標準が記述されている。

世界史、第5-12学年

第1期 人類社会の始まり	標準1~2
第2期 文明の初期、紀元前4000-1000	標準1~3
第3期 古典的伝統、主要な宗教、巨大な帝国、 紀元前1000年-紀元300年	標準1~4
第4期 交換と出会いの拡大 300-1000年	標準1~6
第5期 両半球の相互交渉の激化、1000-1500	標準1~6
第6期 拡大と出会いの地球規模化、1450-1770	標準1~6
第7期 革命の時代、1750-1914	標準1~6
第8期 20世紀	標準1~6

各標準に5-6、7-8、9-12学年毎の生徒の達成標準例が記述されている。

III. 地理の教育課程の対比

1. 英国の地理の教育課程

キーステージ 1 (5~7歳)

ステージ全体を通して、生徒は次の学習機会を与えられなければならない。

- a 彼らの環境の自然的・人文的・特徴の調査
- b 地理的疑問に焦点を当てた学習

c 彼らの住んでいる地方を越えて英国内外に世界があることを自覚させる

地理的技能

- ◇丘、川、道などの術語、◇学校内外の調査、
- ◇方角、◇地図、◇地球儀、◇絵、写真、本、
- ビデオ、CD-ROMを用いて地理的情報を得る

場所

- ◇学校とその回りの地域（英国内と国外）、
- ◇自然的・人文的・特徴、◇地域の類似性と特殊性、
- ◇気候の影響、◇土地と建物

主題学習

- ◇遊び場、街路、森の中などの特徴を表現する、
- ◇交通の発達などによる環境の変容、
- ◇環境の維持と改善、

キーステージ 2 (7~11歳)

ステージ全体を通して、生徒は次の学習機会が与えられなければならない。

- a 同心円的に広がって場所と主題を調査する。
- b 地理学的な問いに焦点を当てて学習する。
- c 降水量、土地利用などの型を認識する。
- d 場所がより広い地理学的文脈にいかにかに適合しているかに気づく。

地理学的技能

場所

主題学習

- ◇川、◇気候、
- ◇人の住んでいるところ一村、町、都市、
- ◇環境変化

キーステージ 3 (11~14歳)

ステージ全体を通して、生徒は次の学習機会を与えられなければならない。

- a 全体的に場所と主題を学習する。
- b 地理学的な問いに焦点を当てて学習する。
- c 地理学的な型、自然的・人文的過程を説明する。
- d 人々と環境との相互作用から生ずる諸問題を考察する。
- e 場所の地球的規模の文脈に気づく。

地理学的技能

場所

主題学習

- ◇地震と火山、◇地形、◇天候と気候、◇生態系、
- ◇人口、◇人々の居住地、◇経済活動、◇発展、
- ◇環境問題

2. 米国の地理の国家標準

なぜ、地理学を学習するのか

それは、地球上の人々、場所、環境の空間的文脈の理解である。

地理学習の存在理由

人間は自分たちの住んでいる地球を理解する必要がある。

- 倫理的理由
- 知的理由
- 実際的理由

なぜ地理学の国家標準を設定するのか

地理学の学習は生涯を通じて行われなければならない

地理学の理解は生活の文脈の中に組み込まなければならない。

地理学的に教養ある市民とは何か

人々、場所、環境の間の相互作用の関連を理解していること

地理学教育の構成要素

地理学は相互に関連しており、分けることのできない3つの構成要素からなっている。それらは、教材、技能、視点である。教材は本質的知識を蒸留させたものであり、国家標準の基礎である。技能は、(1)地理学的問いを出すこと、(2)地理学的情報を獲得すること、(3)地理学的情報を組織化すること、(4)地理学的情報を分析すること、(5)地理学的問いに答えること、の5つである。視点は(6)空間的視点、(7)生態学的視点の2つがある。

場所と空間

空間とは地理学的ドラマが演じられる環境的舞台である。

場所とはその舞台における特定の点である。

地理学は人間経験の空間的次元の理解に関連する。空間は、位置、距離、方向、型、形、配列によって区別される。

場所は、自然的環境の特徴と人間の特徴との関係によって区別される。

教材

地理学は地球を物理的物体、自然環境、人間的場所として考察する。

6つの本質的要素

(1)空間的に見た世界、(2)場所と地域、(3)自然システム、(4)人文システム、(5)環境と社会、(6)地理学の効用

18の標準

空間的に見た世界

1 空間的視点からの情報を獲得し、処理し、報告するのに、地図、他の地理学的表示法、道具、技術を用いる方法

2 空間的文脈における人々、場所、環境についての情報を組織するのにメンタルマップを用いる方法

3 地球表面における人々、場所、環境の空間的組織化を分析する方法場所と地域

4 場所の自然的人間的特徴

5 地球の複雑を解釈するために人間は地域と言う概念を作り出したこと

6 文化と経験が場所と地域の知覚に影響すること自然システム

7 地球表面の型を形成する自然的過程

8 地球表面の生態系の特徴と空間的分布人文システム

9 地球表面における人口の特徴、分布、移動

10地球の文化的モザイクの特徴、分布、複雑さ

11地球表面の経済的相互依存の型とネットワーク

12人間の定住の過程、型、機能

13人々間の協力、葛藤、の力が地球表面の分割と管理にどのように影響しているか環境と社会

14人間の行為が自然環境をどのように変えているか

15自然システムは人文システムに度の世運影響しているか

16資源の意味、効用、分布、重要性に起こっている変化地理学の効用

17過去の解釈に地理学を応用する方法

18現在の解釈と未来の計画に地理学を応用する方法

18の標準の利用

州や学区によって強調点を変えて良い。

達成目標の段階

K-4

5-8

9-12

第4学年終了時に達成していることを期待される知識、技能、視点

第8学年終了時に達成していることを期待される知識、技能、視点

第12学年終了時に達成していることを期待される知識、技能、視点

IV. 公民（社会科）の教育課程の対比

1. 英国の公民の教育課程

公民の国家カリキュラムは1999年に公示された。

[公民の重要性]

「公民」は、生徒に地方的、国家的、国際的レベルの社会において、有効に役割を果たすための知識、技

能、理解を与え、生徒が彼らの義務と権利を自覚して、教養ある、思慮深い、責任のある市民となることを助ける。それは、生徒の精神的、道徳的、社会的、文化的成長を促して、教室の内外において、より自信と責任を持った人間とする。それは生徒を学校生活や、近隣、地域社会、広い世界において役に立つ存在とする。それはまた、我々の経済と民主的制度、価値観について教え；異なった国家的、宗教的、民族的アイデンティティを尊重することを奨励し、諸問題について考える力をつけ、討論に参加させる。「公民」は、キーステージ3、4の個人的社会的健康的教育によって補完される。

「公民」の教科内容

キーステージ3(11~14歳)

キーステージ3において、生徒たちは、政治的、精神的、道徳的、社会的、文化的諸問題や出来事について考え、討論する。生徒たちは自分たちの生活や共同体に影響する法律的、政治的、宗教的、社会的、経済的制度について学習する。生徒たちは学校、近隣、より広い地域社会の生活に積極的に関わり、公共生活においてより有能となる事を学習する。生徒達は、学校、地方、国家、地球規模のレベルにおいて、地域社会の活動への参加を通して、公正、社会的正義、民主主義と多様性の尊重を学習する。

知識、技能、理解

教養ある市民となるための知識と理解

- ①生徒は次のことを教えられなければならない。
 - a) 法律的権利と義務、刑法の諸側面、両者の若者との関係
 - b) 英国内の国家的、地域的、宗教的、民族的多様性と相互の尊重と理解の必要性
 - c) 中央政府と地方政府、政府の仕事、財政、貢献する機会
 - d) 議会の重要な特徴、他の統治形態
 - e) 選挙制度と投票の重要性
 - f) 地域社会における、国家的、国際的ボランティアグループの仕事
 - g) 葛藤を公正に解決する重要性
 - h) 社会におけるメディアの重要性
 - i) 地球規模の共同体としての世界、世界の政治的、経済的、環境的、社会的意味、欧州共同体の役割、英連邦、国際連合の役割

探究とコミュニケーションの技能

- ②生徒は次の事を教えられなければならない。
 - a) 政治的、精神的、道徳的、社会的、文化的諸問題を情報と情報源の分析を通して分析して考える
 - b) それらの問題に対して個人的意見を述べることができ、書く事が出来る。

- c) 集団討議、学級討議を行い、ディベートを行う。参加と責任ある行動

- ③生徒は次のことを教えられなければならない。
 - a) 他者の経験を考察し、他者の見解について考え、表現し、説明できる想像力。
 - b) 学校や地域社会における活動に責任をもって交渉し、決定し、参加すること

キーステージ4(14~16歳)

- c) 参加の過程について考察する。

2.米国の社会科の国家標準

社会科とは何か

社会科とは、市民としての能力を高めるための社会諸科学と人文諸科学の総合学習である。

- 1 社会科のプログラムは市民としての能力を高めることをその主要な目的としてもっている。市民としての能力とは、我が民主主義共和国における市民の仕事をおこなうために必要な知識、技能、態度のことである。
- 2 K-12の社会科のプログラムは諸学問の知識、技能、態度を統合する。
- 3 社会科のプログラムは、現実の観方としての個々の学問から知識の基礎や態度を生徒が構築することを助ける。
- 4 社会科のプログラムは、変化する知識の性質を反映して、人類の差し迫った問題に対する全く新しい高度な総合的な研究方法を育てる。

社会科において優秀性を獲得する方法

共通の善の支援

例：地域社会のすべての個人と集団の一般的福祉
共通かつ多様な視点の採用
知識、技能、価値観の市民としての行動への応用

教授学習の原則

- 1 社会科の教授学習は意味のあるものである時、強力となる。
- 2 社会科の教授学習は総合される時、強力となる。
- 3 社会科の教授学習は価値観に基づいている時、強力となる。
- 4 社会科の教授学習は挑戦的である時、強力である。
- 5 社会科の教授学習は活動的である時、強力である。

社会科の標準の目的

- 1 K-12の社会科のプログラムの枠組みとなる。

2 期待される学習成果を記述することによって、カリキュラムの意志決定に役立つ。

3 教室の実践の範例を用意する。

社会科の標準の組織化の方法

カリキュラムの標準とは、学校教育の過程において計画的に生ずるべきことに関する記述である。目的と内容に関する手引きとなる展望を含む。社会科の標準は主題に関する記述で表現されている。

I 文化

II 時間、継続性、変化

III 人々、場所、環境

IV 個人の成長とアイデンティティ

V 個人、集団、制度

VI 権力、権威、統治

VII 生産、分配、消費

VIII 科学、技術、社会

IX 地球的規模の結合

X 市民の理想と実践

標準の利用者と利用法

州教育部門、学区と学校、教師、両親と地域社会、教師教育者

V. 英国と米国の社会科教育課程の比較

1. 歴史、地理、公民(社会)の3分野に共通する特徴

1 英国の場合は5歳から、米国の場合は幼稚園からと言うように発達の非常に早い段階から教科としての社会科の学習を行っている。

2 英国の場合、各ステージの終了時に全国テストが行われる。その評価はパフォーマンス評価にもとづいたものである。米国の場合も標準にもとづいたパフォーマンス評価が重視されている。

2. 歴史の比較

英国の場合、古代ギリシャを起点においた、英国史、ヨーロッパ史を中心とした伝統的な歴史学習である。英国史については、三つのステージごとに、より水準を高めて螺旋的に学習させている。方法上の工夫はあまり見られない。

米国の場合、家族、地域社会、州、合衆国、世界、と近くから遠くへ配列されている。合衆国史と世界史については、5~12学年において、年代記的順を追って学習するようになっている。世界史の取り扱い方は、人類社会の始まり、両半球の相互交渉の激化、など、歴史をよりグローバルな視野でとらえている。歴史的思考技能と

歴史的理解を統合した歴史学習の標準が目指されている。

要約すると、英国の国家カリキュラムが英国史を中心とする言わば自民族中心主義的な螺旋形カリキュラムであるのに対し、米国の国家標準は、K-4学年において、近くから遠くへ歴史を概観させた後、5-12学年において、よりグローバルな視点において、合衆国史と世界史を平行して学習させている。

3. 地理の比較

英国の国家カリキュラムにおいては、地理学習を環境の自然的人文的調査としてとらえ、地理学的問いに焦点を当て、場所と主題を学習させ、さらに、地理的技能を習得させている。キーステージ1では、学校とその回りと同時に、国外の遠い地域についても学習させている。キーステージ2では、同心円的に場所と主題を学習させている。キーステージ3では、全体的に場所と主題を学習させている。

米国の国家標準では、空間と場所を区別し、地球を、物理的物体、自然環境、人間の場所からなるものとして、空間的に見た世界、場所と地域、自然システム、人文システム、環境と社会、地理学の効用、という6つの視点で考察させている。

要約すると、英国の国家カリキュラムにおいては、地理学を人間と環境という伝統的地理学のカテゴリーでとらえて、5歳の時から、国外の遠い地域を意識させ、地理を学習させているのに対し、米国の国家標準においては、地球全体の中での人間の環境と場所として、よりグローバルに、より体系的な視点で、地理学習の標準を構成し、それらの標準ごとに、k~4、5~8、9~12の知識、技能、視点からなる達成目標を設定している。

4. 公民(社会)の比較

英国の国家カリキュラムにおける公民は、キーステージ3、4において、教養ある市民となるための知識、技能、理解、探究とコミュニケーション技能、参加と責任ある行動について学習させている。知識の内容は、法律的権利と義務、国家的地域の宗教的民族的多様性、政府の仕事、議会、選挙制度、ボランティア、葛藤の解決、メディア、地球規模としての共同体としての世界、といった内容である。

米国の社会科は市民としての能力を高めるための社会諸科学と人文諸科学の総合学習とされ、K~12を通して学習される。標準は、文化、時間、場所、環境、人々、個人的成長、集団、制度、権力、統治、生産、分配、消費、科学、技術、社会、地球的規模の結合、市民の理想と実践、と言った主題に関して記述されている。これらの標準ごとに期待される学習成果が記述されている。

要約すると、英国の「公民」は、教養ある市民として必

要な権利と義務、統治、多様性や葛藤といった問題に関する知識、技能、理解、技能、行動を中心としているの対し、米国の社会科は、文化、時間、場所、環境、人々、集団、制度、権力、統治、生産、分配、消費、科学、技術、社会、といった幅広い主題に対して、社会諸科学、人文諸科学からアプローチする総合学習としてとらえられている。

参考文献

- The National Curriculum, Department for Education
England, 1995.
- National Standards for History for Grades K-4 – Expanding
Children’s World in Time and Space, National Center for
History in the Schools, 1994.
- National Standards for United States History – Exploring
the American History, Grades 5-12 Expanded Edition,
National Center for History in the Schools, 1994.
- National Standards for World History – Exploring Paths to
the Present, Grades 5-12 Expanded Edition, National Center
for History in the Schools, 1994.
- Geography for Life – National Geography Standards,
National Geographic Research & Exploration, 1994.
- Curriculum Standards for Social Studies, National Council
for the Social Studies, 1994.
- National Standards for History, Basic Edition, National
Center for History in the Schools, 1996.
- <http://www.dfes.gov.uk/nc>